



BY KATHY LIEN

今日のFXマーケット 02.17.12  
(2012年2月20日発行)

ユーロが堅調；依然デフォルトのリスクは残る

ユーロ圏諸国、ECB、格付け機関、および世界各国の投資家にとって、過去一週間のギリシャ債務問題の展開は、それが内包する数々の課題を浮き彫りにした。問題が複雑であると言うだけでは不十分である。ECB保有のギリシャ国債を新発債と交換する計画が伝わった木曜日、市場はこれを大いに歓迎したが、それはギリシャの債務再編を妨げていた障害の一つが解決されることへの期待からであった。多くのEU当局者が第二次救済パッケージの承認は間近であると述べ、中には月曜日のユーログループ会合で最終決定がなされるとの声も聞かれた。しかしここに来て、仮にECBが額面を下回る当初の取得価格で保有債券の売却を行った場合、ECBのギリシャ債券交換が格付け機関によるデフォルト指定を誘発する可能性が危惧され始めた。EU当局者は債券交換で合意がなされたと述べてはいるが、今のところECBはその内容を公表していない。信用事由(すなわちデフォルト)が発生するもう一つのケースは、ギリシャ議会が「集団行動条項(CAC)」法案を可決し、すべての債券保有者に債務再編への参加を強制する場合である。国債保有者全員に対するPSI交渉への合意説得がほぼ不可能な状況下、ギリシャは既にCACの合法性を確信しており、かかる事態の発生は理論上可能なばかりでなく、その可能性を高めつつある。パパデモス首相は明日閣議を招集するが、そこでCACが討議されることは明白である。誰も交渉の頓挫を望んではいないが、最終決着までにはまだ多くの難問が横たわっている。

EUR/USDの今日の動きから見る限り、投資家は依然慎重ながらも楽観的であり、合意間近とするEU当局者の発言を信じたがっているようだ。確かに救済策の承認にかかる当局側の意気込みは強く、投資家がこれ以上の失望と落胆を与えられることはないかもしれない。いずれにしても問題が月曜日で終わりにすることはない。少なくとも2月27日にドイツ議会は第二次救済策の採決を行う予定であり、3月2日には臨時ユーロ圏首脳会談が開催され、救済資金の増額が討議される。直近の米先物取引委員会(CFTC)の建玉明細によれば、投機家は相変わらずEUR/USDのショートを抱えている。そればかりか今週初ユーロ上昇が失速した時点では、ショートポジションの積み増しも行われた模様である。もし来週初にもギリシャ救済で合意がなされれば、EUR/USDは大幅に上昇するだろうが、反対に交渉が再び頓挫するようなら、いよいよ1.30を割り込むことになろう。来週はこれといった米国経済指標の発表もなく、市場の関心は欧州に集中する。ユーログループの財務相会合の他には、ユーロ圏景況感指数が水曜日に、ドイツIFO景況感指数が木曜日にそれぞれ発表される。

今日米ドルは欧州通貨に対して下落したが、日本円、カナダドル、オーストラリアドルに対して上昇した。米国では給与税減税の延長法案が可決され、給与税の2%減税と失業保険給付の本年度末までの延長が決定した。社会保障給与税の引き下げで多くの米国民が恩恵を受けるほか、失業保険給付で生計を立てる人々にとっては大きな救いとなる。減税が延長されなかった場合、経済への打撃は少なくなかったはずだ。減税の延長とギリシャ救済に対する期待から、今日米国の株価は上昇し、市場のリスク選好は強まった。また金利差の拡大を背景に、USD/JPYは6カ月来の高値に上昇した。

外国為替保証金取引や、CFD、デリバティブその他のレバレッジ取引には高いレベルのリスクが潜在しており、預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、全てのお客様に適用している投資商品とは言えません。本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

弊社及び著者は投資サービス、法律サービス、会計・税制サービスあるいはその他のプロフェッショナル・サービスは提供しておらず、そのような必要が生じた際は適切なプロフェッショナルからサービスの提供を受けてください。同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。[www.gftforex.co.jp](http://www.gftforex.co.jp) ©2012 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。GD08J.006.011212